

## 文学部30周年記念事業で 狂言上演 (2010.10.1)

文学部30周年記念事業「狂言を  
観にいこう」を創立五十周年記念  
館で開き、約400人の市民や学  
生らが、一流狂言師の舞台を堪能  
しました。

金関猛文学部教授が「岡山と狂  
言―茂山千五郎家との百  
年」と題し、京都の名  
門・大蔵流茂山千五  
郎家との交流の中  
ではぐくまれた岡  
山の狂言文化につ  
いて解説。同家の



▲棒しばりの場面

茂山千五郎さん、茂山茂さんと岡  
山の狂言師・田賀屋房生さんらが  
「棒しばり」と「濯ぎ川」を上演  
しました。

棒や後ろ手に縛られた従者二人  
が工夫を重ねて酒を盗み飲むコ  
モラスな姿や、嫁と姑にこき  
使われる婿が機知を働かせ  
て抵抗を試みる軽妙なや  
りとり、会場は笑いの  
渦に包まれました。

## 医学部創立140周年 記念式典を開催 (2010.11.3)



医学部創立140周年記念式典  
を岡山市内で開催し、教職員や卒  
業生・医療機関関係者ら約500  
人が140年の歩みを振り返り、  
今後の発展を誓いました。

許南浩医学部長が「今この瞬間  
にも多くの人々がよりよい医療を  
求めて苦しんでいる。医学部の歴  
史と伝統を創造的に捉え直し、改  
めてその使命を確認するとともに  
に、より高いレベルで  
社会の要請に応えたい」と式辞。千葉高三学長  
が「総合大学としての  
強みを発揮していく重  
要な基盤要素として医  
学部が活動力に期待す  
る」と挨拶しました。

新木一弘文部科学省医

学教育課長、石井正弘岡山県知事、  
秋葉忠利広島市長らご来賓からも  
祝辞をいただきました。

榎野博史大学院医歯薬学総合  
研究科長、森田潔岡山大学病院長  
がそれぞれ医学部と病院の歴史に  
ついて紹介した後、許医学部長が  
プロのアドバイザーを受けた長期的  
なキャンパス整備計画など、創立  
150周年に向けた取り組みにつ  
いて述べました。

記念講演では、江草安彦社会福  
祉法人旭川荘名誉理事長が「医療  
福祉の祖 岡山大学の先人達」と  
題し、医学部ゆかりの偉大な先人  
の業績を紹介。記念祝賀会では、  
高谷茂男岡山市長が祝辞を述べ、  
参加者全員で140周年を祝いま  
した。

## 中国科学院昆明植物研究所と 共同研究協定 (2010.8.28)



▲綿矢教授(右)、加藤教授(左)  
と龍教授(中央)

中国科学院昆明植物研究所と植物遺伝  
資源の化学成分に関する共同研究など  
を行う協定を結びました。

同研究所には、「植物化学および西部  
植物資源持続利用国家重点実験室」が  
あり、多様な植物遺伝資源とそれらに  
関する伝統的知識を背景として世界的な  
研究が展開されています。本学と2004  
年に大学間国際交流協定を締結し、  
2009年からは日本学術振興会アジア  
研究教育拠点事業「東アジアにおける有  
用植物遺伝資源研究拠点の構築」(コー  
ディネーター 自然科学研究科・加藤鎌  
司教授、同研究所・龍春林教授)により、  
共同研究を本格化させていました。

今回の協定では、治療薬の候補となる  
化合物の選抜や、化合物が作用  
するメカニズムの解析をより効  
率よく行うことで、難治性感染  
症の新薬開発を目指しており、  
さっそく同研究所の王躍虎助教  
を招へいして共同研究を始め  
ています。

## ピエール・マリイ・キュリー大学 と大学間協定 (2010.10.7)



▲パボノ教授(左)と尾坂教授

フランスのピエール・マリイ・  
キュリー(パリ第6)大学と大  
学間協定を締結しました。

同大は、長い歴史と伝統が  
あり、自然科学分野で数多くの  
業績をあげています。同大のフ  
ローレンス・パボノ教授、クリ  
スチャン・ボンノム教授と本学  
自然科学研究科の尾坂明義教  
授、早川聡准教授らは、材料化  
学(とくに生体材料)の分野で  
共同研究を進めており、講演会  
やセミナーを互いに開催するな  
ど、20年にわたり交流。双方  
の大学の合意が得られ、大学間  
協定を締結することになりました。  
今後、材料化学分野での共  
同研究を深めていきます。

## 「アジア創業探索同盟」へ向け ハサヌディン大と協定 (2010.11.12)



▲固く握手を交わすパトルルスイ  
学長(左)と千葉学長

アジア地域で連携して創業シーズの探  
索や人材育成を行う「アジア創業探索同  
盟」の結成を目指し、インドネシア・ハ  
サヌディン大学と大学間協定に基づく共  
同研究の協定を結びました。

本学は文部科学省の補助を受け、「難  
治性感染症を標的とする創業研究教育推  
進事業」を今年度スタート。今年7月、「岡  
山大学国際共同創業基盤センター」を設  
立し、中国、韓国、インド、ガーナなど  
各国の大学・研究機関と連携して、アジ  
ア・アフリカ地域に蔓延するマラリアな  
どの熱帯感染症や肝炎などの難治性感染  
症の治療薬創製のための国際共同研究を  
行っています。

今回の協定により、ハサヌディン大は  
同盟の最初の提携先となり、  
同大の豊富な海洋資源を活用  
した創業シーズの探索と人材  
育成を連携して推進します。

今後は中国、韓国、ガーナ  
などの大学・研究機関と同様  
の協定を結ぶ予定です。

● 岡山大学学会賞等受賞者表彰を創設し4人を表彰  
(2010.10.22)

学会等が制定する賞を受賞した学生の業績を顕彰し、研究意欲を高めるため「岡山大学学会賞等受賞者表彰」を今年度から創設し、表彰式を行いました。

今年4月～9月に学会賞等を受賞した学生の中から、4名を表彰。式では、千葉学長が表彰状を手渡し、「いつそこの研鑽を」と激励しました。受賞者を代表して自然科学研究科博士前期課程の藤谷崇弘



▲千葉学長から表彰状を受け取る曽根さん

さんと医歯薬学総合研究科博士前期課程の曽根曜子さんが受賞内容を説明し、「賞の名に恥じぬよう努力します」と意気込みを述べました。

● 本学など日韓欧12機関が「エラスムス・ムンドゥス計画」に基づくコンソーシアムを設立  
(2010.12.1)

EUとアジア圏の学生・研究者交流を国際的枠組みで促進する欧州委員会の交流事業「エラスムス・ムンドゥス計画2009-2013」に、本学、東京工業大学、慶應義塾大学、早稲田大学など日韓欧計12教育機関が企画・提案したB\*E\*A\*Mプログラムが採択されました。

同計画はII期目で、予算や関連地域は過去最大規模。この計画において初めて日本の大学とEUの教育機関が対等に連携し、博士課程の学生やポスドク研究者、常勤教職員の三つのレベルでの相互交流を行います。これにより両地域間の研究交流の体制の強化が見込まれます。

B\*E\*A\*M参加の12機関はプログラム推進のため12月1日、コンソーシアムを設立。3協力機関とともに、この計画で授与される総額150万ユーロ(約1.7億円)もの交流費で、博士課程の学生やポスドクの研究者、教員の交流を行います。

交流を円滑に行うため、EUの参加校と大学間交流協定を締結する予定。学内組織として、学部・研究科などの枠を超えて教育、研究の高度化と活性化を推進する「教育研究プログラム戦略本部」にエラスムス計画実施委員会(仮称)を設立し、事業の推進を図ります。

\*B\*E\*A\*M=Build on Euro-Asian Mobility

● F I N A競泳ワールドカップ 東京2010で学生が健闘  
(2010.10.20~2010.10.21)



▲松浦選手(左)と押川選手

世界トップスイマーが競う「FINA競泳ワールドカップ東京2010」(国際水泳連盟(FINA)主催)に本学水泳部の松浦稔選手(環境理工学部3年生)、押川里奈選手(教育学部2年生)が出場。自己ベストを更新する健闘を見せました。

★記録は以下の通りです。

松浦 稔選手	男子50m自由形	25位	タイム: 22秒95
押川里奈選手	女子50m自由形	11位	タイム: 25秒50
	女子50m平泳ぎ	15位	タイム: 32秒09

「紅葉の出迎え」 COLUMNS 探訪

キャンパス 04



イチョウ並木 楓、ハナミズキ…。赤や黄に色づいた木々が、パッチワークのようにキャンパスを彩る秋。敷地内を歩いたり、写真を撮ったりする地域の人が増え、スケッチブックを手にしたカルチャースクールのグループにも出会った。絵画教室で毎年訪れるという近所の女性は「わざわざ遠くに行かなくても、ここなら市内で、こんなにきれいな紅葉が見られる。ありがたいこと。散歩でもよく来ます。そう。思えば年中、キャンパスでは、散歩したり、体を動か

かしたりする人を見かける。緑あふれる広々とした敷地は、学生だけでなく、地域の人にとっても和みの場に違いない。産学官の共同研究、自治体との交流教育など、大学と地域とのかわりばさまま。学生主催の交流イベントも行われるようになった。「真に必要とされる大」とは。その答えは、このキャンパスのように、大学組織そのものが地域に開かれ、町や人とけ込む中で見つかるのだろう。すっかり葉も落ちた木々を眺めながら強く感じた。

オープン

● キャリア開発センターを設置  
(2010.8.1)



学生のキャリア開発支援の充実を目指し、キャリア開発センターを設置しました。平成18年に学生支援センター内に設立したキャリア支援室は、中四国地区のみならず首都圏・関西圏への就職率を向上させ、平成22年度国家公務員一種採用試験最終合格者数で中四国地区1位となるなど大きな

成果をあげてきました。近年の雇用情勢や新卒定着率の悪化、平成23年度からの職業教育の義務化を受け、同室をセンターへ改め、就職支援とキャリア教育をさらに充実させます。

これまでの専任教員2名体制から、三浦孝仁副センター長をはじめとする専任教員2名、准教授1名、助教2名の専任教員5名体制に増強。本学独自の個別カウンセリングを基にした就職支援を行うだけでなく、段階的なキャリア教育の充実による学生の自立的かつ自律的な職業観の確立を促すなど、「総合的・実践的なキャリア支援」を展開します。

OPEN